

「全鍍連」 2021年 2月号 若者から一言

埼玉県鍍金工業組合

埼玉鍍会 会長 山本 隆治 (日本マイクロ工業(株) 代表取締役)

「アフターコロナを見据えて」



昨年6月に埼玉県鍍金工業組合青年部、埼玉鍍会の第26代会長に就任いたしました日本マイクロ工業(株) 山本隆治です。若輩の身ながら、先輩方が築いてきた素晴らしい伝統と財産を受け継ぎ、会に参加する全員が成長・発展してゆける会の形成を目標に努力していく所存です。どうか皆様の温かい御指導とご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

令和を迎え我々埼玉鍍会も50周年を超え、いよいよ国内でオリンピック…と賑やかな年となるはずでしたが現況はご存知の通り、例年京都清水寺で発表される2020年の漢字は「密」となったようにコロナウィルスに振り回された1年となりました。2021年においても年明けから関東一円の非常事態宣言と今まで経験したことのない情勢に企業の存続も危ぶまれる未曾有の事態となり、弊社におきましていつにも増してお客様の受注のアップダウンが激しく、二割増しの月もあれば五割減の月もありのジェットコースターに乗っているような景況です。私自身、会社を引き継いで10年が経ち、東日本大震災をはじめ様々なトラブルを経験して参りましたが、ここまで長く、全世界的でしかもめまぐるしく情勢が変化する経験はしておらず、大変苦しい思いをしております。

会の内情につきましても止む無く中止とせざる得ない行事も発生し、会員同士の情報共有や活動そのものも厳しくなっているのが実情ですが、現在は正に過渡期であり、アフターコロナのめっき業の有り方を模索するためにも、会員相互及び他県との交流を深め、全員が研鑽して学んでいく埼玉鍍会の活動こそ不可欠であると実感しておりますし、今までのセオリーに拘らない、新たな試みのチャンスであると感じております。所謂「三密」を避け、ZOOM等のコミュニケーションツールを使用したりリモート例会や屋外で活動できる例会を検討し、また社会を構成する一員として、業界だけに留まらない社会貢献を行う方法がないか皆様のお知恵を借りながら摸索していく所存です。初めての試みが多く、不備、不手際多々あるかと存じますが、何事も経験し自らの糧としてこそこの埼玉鍍会ですので、何卒ご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

私事では、季節のイベントが軒並み中止になったり、気に入っていた飲食店が閉店してしまったりと悲しいことの多い一年でもありました。まだまだ辛い状況が続くのかと思いますが、一方で、はやぶさ2が無事帰還を果たし次の任務に旅立ったり、横浜で実物大のガンダムが歩く等、ものづくりに携わる人間として非常にワクワクできることがあったのも確かです。私としても、産業の基盤となるこの業界の一員として、少しでも明るい話題に寄与できたらと願いながら、足元の仕事をこなす日々です。

非常に困難な状況ではございますが、51期を迎え変革の過渡期にある埼玉鍍会にご期待いただき、どうか今後とも活動にご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。